

## 幸せに過ごすために

宮崎・東諸県支会代表 緒方 美心

私は現在高校2年生の17歳です。もうすぐ18歳を迎える私にとって今最も身近にある大人への1歩が、「選挙」だと思います。最近では友達との間で政治について話したり、私たちがよく使用するSNS等で政治や社会情勢を知る機会が多くなってきました。

その中で私が興味を持った言葉が「幸福度」についてです。世界に目を向けると、幸福度ランキングでは常に上位にデンマーク、フィンランド、アイスランドなどの北欧諸国が入っています。その理由を調べた結果、北欧諸国では国民の幸せを最優先した政策が多く、子育てや教育・医療など強力な社会福祉制度があることや、経済的な安定などが幸福度の高さに寄与していることが分かりました。

一方、日本は2024年度の幸福度ランキングでは51位と、北欧諸国に比べると、低くなっています。治安の良さ、教育水準の高さ、社会保障制度の充実などが国民に安心を与えている反面、長時間労働や少子高齢化の問題、寛容性の低さなどが順位を下げていることが分かりました。

さて、幸福な社会を実現する上で、政治や政策が深く関わっていることは間違いのないことですが、政策決定に参加する最も直接的な手段が選挙ということになります。ここで、幸福度の高い北欧諸国と日本の選挙制度の特徴を比較すると次のことが分かりました。

一つ、日本は小選挙区制であるため、小さい政党の議席獲得が難しく、多様な意見が反映されにくいこと

二つ、18歳選挙権が導入されたばかりで投票率は依然として低迷しており、若者の政治参加がすすんでいないこと

三つ、情報公開やインターネット投票の導入が進んでいないこと  
などです。つまり、日本の選挙制度は、多様性に欠けており、国民の政治への関心を低下させる恐れがあることが分かりました。中でも二つ目の投票率の低迷と、若者の政治参加の低さの問題は私たち高校生の問題でもあります。

このことについて、私なりに考えてみました。やはり、18歳になったからいきなり政治や選挙に関心を持てと言っても無理があります。まずは、小中学校から政治や選挙の大切さや関心を高める教育内容を計画的に取入れたり、若者の声を適宜、知事や市長に届ける仕組みをさらに拡充するとよいと思います。次に、今の若者は、新聞を読まない、TVを見ない、本を読まないという特徴があります。ほぼすべての情報をスマートフォンやタブレットから得ているため、様々なSNSにアプローチする仕組みが求められると思います。さらに、どうしたら私自身が選挙に行くだろうかを考えた

とき、やはり若者の思いを代弁するような政策を掲げ、実現してくれる候補者が立候補することだと思いました。若者の政治や選挙への関心を高めるために、二十歳前後の議員が一定比率で議会の中に入らなければならない、という条例や法律をつくるのも即効性があるかもしれません。

最後になりますが、私たちの幸福度を向上させる一つの要因として「選挙」が大きく関わっていることが分かりました。そうである以上、選挙に参加することが巡り巡って私たちの幸福にもつながってきます。もし、私が「面倒だから」という理由で一票を放棄してしまったら、きっと私の周りの友人も同じ理由で投票に行かないでしょう。大人の仲間入りをし、責任ある行動をするためにも、私は、「権利である投票」を、行使します。